

平成 25 年度第 1 回大阪府立泉北高等学校学校協議会

1 日時：平成 25 年 6 月 7 日（金）15：45～17:00

2 会場：本校会議室

3 出席者 <委員>

加藤 正彦氏（泉北高等学校元校長）、伊藤 智博氏（大阪府立大学 教授）、中村 俊一氏（立志館ゼミナール 館長）、大坪 登志美氏（泉北高等学校 PTA 会長）

4 挨拶 校長

- ・今年度の協議会内容の予定としましては、1 学期は今年度の学校経営計画についての提言を、2 学期は授業見学を含めた協議会、3 学期は 1 年間の総括をお願いしたいと思います。
- ・全校前期入試になりまして、入試倍率が若干下がりましたが、受検層としてはそう大きく変わらない結果となりました。来年度から学区撤廃されるので、学校の広報活動に力を入れ、広報を引き続き本校の最重要課題と考え実施していきたい。
- ・SSHの取り組みは再指定から 2 年目を迎えましたが、今年度から人材育成重点校となり年間 1000 万円の予算をさらにいただけることとなった。重点校としては、これまでの SSH の取り組みをさらに進めて、小中高大の連携、地域の理科教育、海外で活躍できる科学者の育成ということに 3 年間かけて取り組み成果を上げていきたい。
- ・大阪府教育委員会から指定を受けた「イングリッシュ・フロンティア・ハイスクール（以下 EFHS）」の取り組みでは、最終年度の 3 年目を迎えました。当初の目標には届きそうにないので目標設定を見直し、取り組んでいきたい。教育長が掲げる「英語教育のさらなる充実」に向けて、実践していきたい。

5 本年度の学校経営目標とその取り組みについて

①平成 25 年度学校経営計画及び学校評価について（教頭より）

- ・今年度は学校経営計画 2 年目にあたり、来年度が完成年度となる。詳細は各分掌より説明する。開かれた学校作りに力をいれてきたことについて、広報部から報告がある。学校経営計画に基づき、文武両道の実現及び日々の学校生活を大事に教育実践に当たりたい。
- ・評価指標については、昨年度の学校協議会で説明させていただいたアンケート結果に基づいて作成した目標で、各分掌及び各教科で重点的に取り組んでいきたい。

②平成 25 年度入学者選抜結果について（教頭より）

- ・今春の入学者選抜結果として、国際文化科は微減傾向が続いており、総合科学科は一定のレベルが維持できていると思われる。
- ・受検層はあまり変わらないように思われるが、若干の違いがみられるので、その原因について様々なところで検証して課題を明確化し、解決できるように取り組みたい。

③各分掌等の取り組みについて

1) 教務部の取り組みについて（教務部長より）

- ・成績処理・教科書注文について業務を再点検し改善を行う、校務処理システムの確立により正確でスピーディーな対応をめざす、次年度以降に継続できる業務の処理・運営の確立、生徒の学力向上のための方策と実践、という4つの達成目標に取り組む。
- ・今年度より全府立高校で統一して使用する校務処理システムが導入され、最終的には指導要録や成績証明書などもこのシステムによって発行し、各学校で運用していく。慎重に取り扱いながら、最大限に生かし運用に取り組む。

2) 生徒指導部の取り組みについて（生徒指導部長より）

- ・あいさつ、掃除、マナーの向上を3本柱に取り組む。
- ・携帯・スマートフォンによるトラブルへの発展や、使用時間の増加で問題になっているので、適切な使用方法を指導したい。
- ・交通マナーが悪いことで苦情も多い。特に自転車の乗車マナーが悪く、先日も南警察署の方に来ていただいて指導をしていただいた。

3) 進路指導部の取り組みについて（進路指導部長より）

- ・1年次から3年次まで系統立てた指導、自己認識や社会情勢の理解、職業観を持てる指導、各学年と連携して学年にあった進路情報の提供、長期的及び計画的に取り組む受験勉強を通じた大学入試センター試験受験者数の維持と国公立及び関関同立の合格者が増加する体制づくりをめざす。
- ・今年度の目標は、国公立20名、関関同立55名、合格者延べ100名をめざす。

4) 保健部の取り組みについて（保健部長より）

- ・生徒の心と体の健康を考えていくために、PTAや生徒の参加をも促して校内環境を整備（花壇など）し、心が和む学校づくりをめざす。
- ・教育相談室を整備したので、発信できる教育相談をめざして積極的に行いたい。

5) 国際総務部の取り組みについて（国際総務部員より）

- ・長期留学では3年生で1名カナダに留学中（7月に帰国）、2年生は3名アメリカに留学予定。1年生は1名が長期留学検討中です。
- ・夏休みに行われる夏季語学研修では、オーストラリアに10名、ニュージーランド17名、ハワイに12名が参加。希望者には英語のテストを実施し、希望者多数の中から選考。
- ・長期短期留学の受け入れとして、4月からヘンリック（スウェーデン）を受け入れ。7月にスペインからの生徒を受け入れ予定。
- ・国際交流として、来週月曜日10名の生徒が韓国から来校し英語の授業やクラブなどで交流。
- ・今年度から新たな取り組みとして、国際総務部通信を発行し、交流校や長期留学生についての記事を掲載している。
- ・PTA文化委員会では、先日行われた高校祭体育の部での熱中症対策として、ジュースを配布した。また、学校に来ていただく機会を増やし、助言をいただくことを目的としてPTAコーラスや花を植える等の校内美化活動を昨年から行ってきたが、今年度も引き続き活発に活動していきたい。

6) 図書情報部の取り組みについて（図書情報部長より）

- ・図書館の利用活性化をめざしている。図書館司書の廃止等から、図書館の常駐が難しい状態になっております。また、書籍管理のバーコード化を順次進めている。
- ・6月27日にビッグアイで「キュリーキュリー」という青年劇場による演劇を鑑賞。保護者も参加予定。
- ・校内ネットワーク管理組織の確立においては、担当の教員が専門にあたっている。
- ・図書だよりや図書案内を配布しているので、ごらんください。

7) 広報部の取り組みについて（広報部長より）

- ・学校説明会の実施、ホームページの更新、ブログ発信、学校通信の発行、各クラブブログの整備と運営を課題としている。
- ・「SEMBOKU DAYS」という教員ブログと校長ブログを今年度から開設。公式 Facebook ページへのアクセス数が増加している。各ブログ、ホームページ、学校通信に関する問い合わせも増え、校内で浸透してきている。
- ・学校説明会の周知徹底をはかり、志願者増をめざしたい。

8) SSHの取り組みについて（SSH運営委員より）

- ・平成24年度の取り組みと今年度の取り組みを比較する。総合科学科に設けた「グローバルコース」で英語に力を入れた科目や研究をさらに実施することができる科目がある。
- ・昨年から設置した選択科目「科学探求基礎」では1年生から課題研究に取り組んでいる。昨年は15名だったが、今年度は42名が受講している。
- ・小中学生対象の科学教室を7回程度連続して開催し、100名以上の応募があった。これを今年度も地域連携の柱としたい。
- ・海外の学校との自然科学に関する研修や共同研究に取り組んでいる。今年度もオーストラリア及び台湾で研修を行うが、オーストラリア研修は本校から6名、他校から7名が参加し、重点枠の取り組みの一つとして行う。
- ・昨年は表彰を受けた生徒の課題研究も多く充実していた。
- ・今年度は、地域連携と海外連携を両立できるような取り組みを重点枠で3年間行うこととなり、他校や小中大学と連携を深めながらSSHの取り組みを深める。

9) EFHSの取り組みについて（EFHS主担より）

- ・3年目としての達成目標を見直して取り組んでいく。
- ・昨年同様、オンライン教材による TOEIC Bridge 対策を行い、TOEIC Bridge の得点向上に努める。
- ・今年度の学校選択科目「GET」は、国際文化科79名、総合科学科19名が受講し、昨年度よりは若干少なくなっている。
- ・今年度から始まった TOEFL iBT 支援事業に取り組むことになり、「GET」受講生は全員授業で取り組み、長期休業中の TOEFL iBT スコア向上をめざした講習も予定している。
- ・全生徒の英語カルテを作成し、英検等の資格試験の達成状況の把握を行い、学力に見合った指導を行っていきたい。
- ・今年度の Motto GET 受講生は12名で、TOEFL iBT のリスニングとスピーキング強化のために本校の外国人講師が担当しすべて英語で講座を実施。

- ・今年度の Zutto GET は 28 名が受講し、国連の活動を学び、3月に泉北ミニ模擬国連を開催。
- ・Zutto GET Plus は 6 名受講し、第 7 回全日本高校模擬国連大会出場をめざす。
- ・ハワイ大学交流研修は 12 名が参加して実施予定。
- ・11月に東京研修、3月にインターナショナルとの交流を含めたイングリッシュキャンプを予定。
- ・今年度から英語で理科の授業を行う学校設定科目「科学英語基礎」を英語科の教員、理科の教員、NET の 3 人で担当している。来年度の SSH 課題研究発表会で英語で発表することをめざした実践的な授業を行っている。

6 協議

(委員) 学生の挨拶が気持ちよく、生徒指導がきちんとなされていると感じた。大学で防災訓練を初めて先日実施したが、高校でも継続してされる方がよい。広報で最も効果があるのが、学生が説明することだと思う。大学でも自分たちの経験を話すのはよかったと思う。

(委員) SSH と EFHS の取り組みはすばらしい。今の泉北高校生は、自分が積極的になりさえすれば、いろんな機会が与えられる。学ぶ機会を積極的に活用してほしい。この取り組みは先生方のレベルが上がるのではないと思う。総合科学を英語で取り組むとなれば、ルーティーンでは出来なくなる。このシステムを追及されて継続していけば、先生方のスキルがさらに向上すると思われるのでよいと思う。国際文化と総合科学の希望が少し減っているが、この二つの取り組みをしっかりと広報して、生徒にも語らせていくとよい。生徒たちもこれにくらいついてどれくらい伸びるかを期待したい。

(委員) 例えば、生徒を中学校に送る広報の取り組みなどはありませんか？生徒を卒業校に送るなど。
→ (学校) 6 月下旬にアンバサダーということで、卒業校に生徒を派遣する取り組みや、各クラブは中学校と連携を取り、開かれた学校づくりをめざしている。

(委員) 公立高校はどの学校もアピールできるポイントはアピールする時代になり、プレゼンや見せ方によって違いがでてきている。いかに見せていくかというのが広報戦略として重要になってきている。公立高校の広報戦略が変わり、良くなってきていることは、私学にとっても脅威になってきていると思う。私学も公立に負けないようにとやってくるので、大阪府の子供たちからすればよいことになっていると思う。

(委員) 全県一区になれば、広報活動はより一層重要になってくる。

(委員) 入試の統計では少し下がり気味ということだったが、長い目で見ることがある。帰国生が毎年入学しているが、日本語は苦手な学生でしょうか。その場合、授業についていきにくいということはあるのではないかと。大学でもそういうことがあるのですが。

→ (学校) 8 名までは特別入試枠で、日本に来て 2 年以内の生徒は帰国生枠で入学できることになっている。毎年日本語が苦手な生徒が入ってきているが、国語などの時間で特別授業や毎週火曜日に年間 15 回、日本語指導を 2 時間、学校の教員とサポーターのチームティーチングで行っている。教育サポーターとして、通訳の方も保護者懇談に来ていただき、学校の様子が分かっているようにしている。帰国生枠での入学生は仲が良く、1 年生は生徒会にも入り学校行事のサポートを楽しんで行っている。生徒会長も帰国生であるということも手伝って、帰国生も生

徒会に入りやすかった。進路は、教員と一緒にオープンキャンパスに行ったり、大学に問い合わせをしたりしてサポートをしている。

(委員) 大学はそんなに細やかなサポートをしていないかもしれない。

→ (学校) 国際交流でも、司会や通訳などで帰国生が活躍する場がたくさんある。韓国
交流では、インド人の生徒とイギリスから帰国した生徒が校内を案内する予定。

(委員) 進路、国際交流や広報の報告をいただきました。

【協議会まとめと提言】

あえてひとつ上げるとすれば、進路保障であろう。進路保障のためには、国公立をめざすことができる仕組みを1年から継続して指導できるようにすることが大切である。センター試験を受験できるようにする必要がある。関関同立への合格率を上げていかないと、身に付いたものが生かされない。合格率が上がることを、さらに期待している。また、高校生になってからスマートフォンを使用することが増えていく。スマートフォンの使用ルールでは、様々なSNSの使用も開始するので、誰かのコメントにコメントをするが、いいことやほめることをコメントし、悪いあるいは人の悪口のようなコメントはしないという指導が必要だと思う。ほめることを書くと友達も増えていいことがあるよと指導するのはいいと思う。